

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	17	学校名	羽島高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した学びを推進する地域密着型の高校として 社会的な基礎力や創造力を身に付ける教育活動を通して 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、地域の未来に貢献できる人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	地域密着型の高等学校として、家庭や地域社会と連携し、社会的な基礎力・創造力を身に付けることにより、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、地域の未来に貢献できる人材を育成する	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・教養を身に付け、現代社会における自分の意見や考えをしっかりとつことのできる生徒 ・TPOに応じたマナーを身に付け、他を思いやり、爽やかな挨拶を交わせるなど、望ましい人間関係が築ける生徒 ・地域の一員としての責任を自覚し、羽島市を中心とする地域社会の未来の創造に積極的に参画できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組み、生徒の興味・関心を喚起する生徒参加型の授業の実践 ・地域社会における信頼と期待に応えるために、身だしなみに対する意識や相互協調性を高める指導の継続 ・探究的な学びや各種検定への挑戦・資格取得等を通して、学習に対する意欲を喚起させるとともに、進路（進学・就職）に対する意識を高め、進路実現を図る
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力を身に付け、本校の学習によってより専門的知識・技術を身に付けることにより、未来に向けて社会の発展に貢献したい生徒 ・生徒会・Sクラブ・その他部活動を中心とした奉仕活動や地域活動への積極的な参加により、豊かな人間性と個性の伸長を図ることができる生徒 ・高校生活を通して、自分の将来について真剣に考えることができ、挨拶や他者への配慮など社会的なマナーを身に付け、羽島市を中心とする地域社会で活躍したい生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校段階までに基礎学力の定着が十分でない生徒が多いため、学び直しも含めた基本的な学習習慣を定着させること ・多様な生き立ちや家庭状況を背景に抱える生徒が多く、その中で日本の現代社会における基本的な生活ルールやマナーを習得させること ・自己肯定感や自己有用感が低い生徒が多いため、個々の価値を見出させ社会で活躍できる自信を持たせること ・羽島市など地域社会や地元企業からの期待が大きい中で、地元中学校や中学生に本校の良さを十分に伝えていくこと 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	基礎学力の定着と探究的な学びの推進により、生徒の特性や多様な進路希望実現に相応しい学力を育成します
	生徒指導	地域社会の一員として、自信と自覚と自らの行動に責任がもてるよう社会における規範意識を育てます
	特別活動	課題探究に取り組み、地域活動やボランティアに積極的に参加させることで、地域の課題解決を図れる豊かな人間性と個性の伸長を図ります
	その他	生徒と教職員の相互が「心理的安全性」を感じられるような学校を目指し、勤務時間管理の徹底と勤務時間を意識した働き方を推進します

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	生徒の特性や多様な進路希望に応じた学びを推進し、ユニバーサルデザインの視点で授業改善を進めます	施策Ⅱ-8	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、学習指導に関する項目の肯定的評価が80%以上 各種検定の受験者数・合格者数・合格率の向上と進路未決定生徒の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ①参観授業旬間を年2回設定するとともに、探究活動を取り入れた授業をテーマに、各教科年1回参観授業を実施した（昨年度まではICTの活用をテーマに参観授業を実施）。お互いに参観し合うことで、授業改善への意識を高めた。 ②特に、就職希望の生徒で、商業系科目を選択履修している生徒については、検定に向けた演習を授業で行った。また、教科が中心となって、漢字検定や英語検定へのチャレンジを促すことができた。 ③進学（四年制大学、短大、専修学校等）や就職など、幅広い進路ニーズに対応することができるよう、カリキュラムの見直しを図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①ベア活動やICT、発問を工夫した授業が行われており、生活実態調査では「教師の授業改善」90%、「真面目に授業に取り組んでいるか」90%と高評価で、学習環境の整備に繋がっている。 ▲「授業の理解度」は79%と目標未達で、基礎学力定着に向けた更なる授業改善が必要である。 ▲授業参観は業務過多で活性化しておらず、学校全体で気軽に参観できる雰囲気づくりが課題である。 ②漢字検定や英語検定の合格者数は昨年度を上回っている。商業系検定においても上級資格の取得者が増加しており、資格取得に意欲的な生徒が増え、放課後に自主的な演習に取り組む姿も見られる。 ③各教科に素案を示し、意見を取り入れながら次年度以降のカリキュラムを検討することができた。 	
	タブレットやICTの活用等を通して個別最適な「学び直し」の機会を設けます	施策Ⅱ-9					
	各種検定への挑戦・資格取得を通して、専門性の高い知識・技能を身に付けさせます	施策Ⅱ-11					
	学習に対する意欲を喚起し、進路に対する意識を高めさせることで進路実現が叶うよう支援します	施策Ⅱ-13					
生徒指導	授業規律の遵守など基本的学習習慣を身に付けるためのルール指導を継続します	施策Ⅳ-23	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートにおいて、生徒指導に関する項目の肯定的評価が80%以上 遅刻の経年比較、遅刻総数減少 いじめ認知件数および解消に至る経緯の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業態度不良等を記録し、指導対象回数に達した生徒は学年主任による指導を行った。 ②生徒会による遅刻ゼロデーの啓発活動のほか、職員による呼びかけなどを行った。 ③学年別身だしなみ検査を毎月実施し、全校一斉の再検査及び指導を行った。 ④教育相談旬間や心のアンケート等が出てきた情報を基に、担任や学年団と連携し情報共有するとともに、何事も早期発見、早期対応に力を入れた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①学校評価アンケートの「基本的生活習慣に関する指導が行われている」という質問に対し、生徒・保護者ともに80%超で肯定的回答を得ている。 ②遅刻ゼロデーの継続、生活改善シートや5回ごとの電話連絡で保護者の協力も得られ、遅刻者は減少してきており指導の効果が現れている。 ③身だしなみ検査を毎月実施することで、正しい身なりが継続できるように違反者の減少につながっている。 ▲声掛け指導を行っているが、変わらずシャツ出し・スカート曲げ等をする生徒はいるため、継続指導が必要である。 ▲交通ルールやマナーなど学校外での社会規範が守れない事案がやや見られ、厳しいご意見をいただいた。啓発を行いモラルの向上を図っていきたい。 ④日常の些細な会話などからも生徒の変化を汲み取り、情報を共有することで見落としが減り、丁寧な対応ができています。 	B
	地域社会における信頼と期待に応えるために、身だしなみに対する意識を高める指導を継続します	施策Ⅰ-1					
	社会性指導の一環として、遅刻指導を段階化し、遅刻数減少を目指します	施策Ⅰ-7					
	「迷惑・いじめ調査」や教育相談旬間等の実施を通して、生命の尊重やいじめ、迷惑行為の防止指導を徹底します	施策Ⅰ-3					
特別活動	部活動加入を推奨するとともに積極的な参加を促し、人間性を養う場としての部活動の充実と活性化を図ります	施策Ⅳ-25	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率・定着率の向上 各種地域活動実績(参加人数・イベント数)の検証 生活実態アンケート「学校に対する気持ち」の検証 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動の活性化と2・3年生での部活への定着を図ることに力を入れた。 ②地域からのボランティアの依頼が数多くあり、積極的に参加している。 ③生徒会行事が、大変活発に活動できた。 ④イタセンパラの保全活動を地元の小学校で開催したほか、地元企業とのコラボで新商品が2つ完成し、F C岐阜の試合会場で販売実習を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動への加入率は65%になった。 ▲2・3年生の部活動への参加状況に比べ、1年生の参加状況は、入学当初は良かったが、しだいに減少してきた。 ②生徒会やSクラブ・吹奏楽部などの部活動を中心に地域活動に参加することができた。また、羽島市で「ねりんピック岐阜2025」のゲートボール競技が開催され、自主的に希望した生徒も参加した。 ③生徒は学校に来る目的として、勉強以外に友人との関わりを楽しみにしている。学校行事やHR活動等を通して、相手を思いやる心を身につけさせたい。 ④地元の小学生から「低学年にもイタセンパラの紙芝居の読み聞かせをしたい」との意見があり、活動が広がっている。 	B
	生徒会・Sクラブ・部活動等を中心に、奉仕活動の充実と地域活動への積極的な貢献を推進します	施策Ⅰ-5					
	HR活動・学校行事等を通して生徒自身が個性を伸ばしつつ、良好な人間関係を構築できるよう支援します	施策Ⅰ-2					
	探究的の学びの場を地域に広げ、地域課題の解決に貢献できる人材づくりを目指します	施策Ⅰ-4					
その他	校務のDX等を通して、教職員の業務内容の見直し・改善を図ります	施策Ⅳ-27	<ul style="list-style-type: none"> 時間外在校時間が月45時間年360時間を超える教職員ゼロを目指す 出退勤簿の確実な打刻とその検証 学校評価アンケートにおいて、家庭との連携に関する項目の肯定的評価が80% 職員に対する働き方改革に関するアンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①自動採点システムの導入と定着により、業務の軽減が進んだ。更にその使用頻度と使用範囲の拡大を図る。 ②「早く帰る日」の実施を周知するとともに、管理職から勤次郎への正確な打刻を徹底するよう呼びかけ、職員への声掛けや管理職間の情報共有を行い、必要に応じて管理職や産業医との面談を実施した。 ③HPへの情報公開で学校行事や部活動の活躍を紹介できた。 ④新たに公式のInstagramを開設し学校内外での活躍情報を発信することができた。また、すぐーのメール配信により、生徒と保護者に、より迅速な情報共有が図れた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒に寄り添う指導を行い、保護者と共有、連携をとることで、時間外在校時間が超過する現状もあった。引き続き勤次郎への正確な打刻の徹底を呼び掛ける。 ②職員室での挨拶や職員の笑顔がみられ、良好な職場環境であるが、より向上するために管理職から、周囲への細やかな配慮や振る舞いについて声掛けを行う。 ③HPの更新と積極的な情報公開では、各方面からの意見を得ることができた。 ④Instagramの開設でより多く情報を届けることができた。家庭との連携では、概ね80%の肯定的評価をいただいたが、まだ学校との関わりが少ないと感じている保護者もおり、すぐーでの配信などより迅速な情報共有を継続的に図っていく。 	
	勤務時間管理の徹底と勤務時間を意識した「心理的安全性」を感じられる働き方改革を推進します	施策Ⅳ-28					
	HPの充実やメール一斉配信の活用にも努め、多様な背景を持つご家庭等とも有益な情報共有に努めます	施策Ⅳ-22					
	本校の地域連携の取組を地域社会に理解いただくため、地域社会やメディア等への情報提供を積極的に行います	施策Ⅳ-20					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 1月22日

- ・複数担任制については、運営についてブラッシュアップし継続して行うよう検討する。
- ・1年次に進路希望に応じた科目選択を行い、2年次から進路選択に応じた選択履修を開始している。進路意識が明確でない生徒が安易な考えで科目選択を行わないように、生徒に一番近い位置にいる担任が、進路実現を見据えた科目選択指導を行う。
- ・来年度、個人所有のタブレットが導入されるため、使用率を上げるだけでなく、運用と管理面も課題となる。そのため、運用管理面を学校全体で徹底していく。
- ・補充や学習支援、進路実現に向けた週末課題等の重要性の理解や、継続して取り組むことが難しい生徒に対し、個々の状況に寄り添いながら粘り強く指導の継続を図っていく。
- ・生徒の多様化、強い個性をもった生徒の増加により、個に寄り添い、個に応じた指導は必要不可欠であるため、「安全安心な学習環境」を提供するうえで、物事の良し悪しをしっかりと指導する必要がある。生徒が多様化している分、指導も多様化し、情報共有が大切になるため、教員同士が連携し意思統一した上で指導を行う。
- ・今年度Instagramの開設により情報の発信が大きく広まった。HPやすぐーによる情報発信と合わせ充実させていく。

学校関係者評価

実施日：令和8年2月16日

- ・新校舎による環境改善も成長の一因だが、子どもたちの変化の背景には、先生方の粘り強い指導が大きく寄与している。
- ・選択授業や少人数授業による理解しやすい環境が整っており、週末課題や補充学習など、生徒が主体的に学べる工夫が行われている。
- ・検定合格者の増加に意欲が見られ、科目選択の目的明確化や理解力向上のため、今後も指導方法の工夫を続けてほしい。
- ・大学ではBYODが主流となり、「使える」だけでなく「使いこなす」発想力が求められている。AIも同様で、正しい理解と適切な活用が重要であり、今後は人とAIの対話力が重要になる。
- ・SNSなどの誤った利用は非常に危険であり、危機管理能力の指導を徹底してほしい。
- ・挨拶の定着や遅刻減少は先生方の指導の成果だが、自転車通学では危険な場面も見られるため、マナー向上やヘルメット着用率向上を中学校と協力して進めてほしい。
- ・学業だけでなく、社会で必要となる多様な経験を積める環境が整っており、その取組が大変素晴らしい。
- ・部活動は競技や文化を楽しむだけでなく、集団生活のルールを学ぶ場でもあり、卒業後に恥ずかしくない社会的マナーを身に付けてほしい。
- ・生徒会やSクラブの活発なボランティア活動は地域における学校の良いアピールとなっており、自主的な企画運営ができ始めていることは素晴らしい。今後は依頼対応だけでなく、自ら課題を見つけ解決に取り組む姿勢をさらに期待する。